

1. 略歴

- 1987年3月 京都大学文学部卒業（文学士）
- 1989年3月 京都大学大学院文学研究科修士課程（ドイツ語学・ドイツ文学専攻）修了（文学修士）
- 1990年3月 京都大学大学院文学研究科博士後期課程（ドイツ語学・ドイツ文学専攻）退学
- 1990年4月 神戸大学教養部助手
- 1991年10月 神戸大学教養部講師
- 1992年10月 神戸大学文学部講師
- 2000年10月 神戸大学文学部助教授
- 2000年4月 文部省在外研究員としてドイツベルリン自由大学に留学（2001年2月まで）
- 2007年4月 東京大学大学院人文社会系研究科准教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

近代ドイツ語圏文学

b 研究課題

18世紀の文学・思想が研究の中心にある。もともと初期ロマン主義研究から出発し、ノヴァーリスを中心に仕事を進めてきた。とくに超越論哲学・自然科学との関係において初期ロマン主義が展開した独自の表現技法と、その背景にある言語・芸術観が興味を中心にあった。また、その問題意識を継承する20世紀の文学者・思想家の系譜も研究の対象となった。現在は、啓蒙期の文学・思想を、ロマン主義の前史という観点に限定されることなく研究している。また、18世紀以後、ドイツ語圏にあって、自然科学者であり、あるいは自然科学研究から出発しつつ、文学者であった人々—ハラー、リヒテンベルク、ノヴァーリス、アルニムから現代にいたるまで—の営みを「実験者の文学」という観点から跡付けするという作業を進めている。

c 主要業績

(1) 論文

宮田眞治「自然の内部に、被造物の精神は踏み込まない—A. v. ハラーにおける境界 / 限界の諸相」『死生学研究』第14号、1-41頁、2010.12

(2) 学会発表

国内、「イエナ・ロマン主義における〈能動・受動〉モデルの問題」（シンポジウム「ヘーゲルとロマン主義」における提題）2011.12.18. 日本ヘーゲル学会 第14回研究大会（神奈川大学）

(3) 会議主催（チェア他）

国内、「第52回ドイツ文化ゼミナール」、実行委員、2010.4.21～2010.4.27

国内、「第54回ドイツ文化ゼミナール」、実行委員長、2012.3.10～2012.3.16

国内、「日本シェリング協会第19回大会」、チェア、ドイツ・ゴシックをめぐって、神奈川大学、2010.7.3～2010.7.4

(4) その他

Auswahlbibliographie zum Sonderthema: Der Krieg als Thema deutschsprachiger Literatur seit 1945.

In: "Neue Beiträage zur Germanistik" (Herausgegeben von der Japanischen Gesellschaft fuer Germanistik)

Band 10 / Heft 1 2011 pp.99-102

3. 主な社会活動

(1) 学会

日本独文学会 理事および編集委員 2009.4～

日本シェリング協会 理事および「シェリング年報」編集委員長 2008.10～